

フレキシブル継手共通 使用上の注意事項

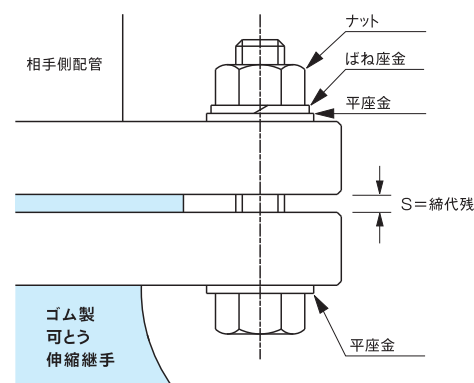
フランジ接続の場合

1) ゴム製フレキシブル継手は、相手側フランジの形状によってゴム本体のパッキンシール面が損傷する恐れがあります。下記を参考にフランジの形状をご確認下さい。その他の形状はお問い合わせ下さい。

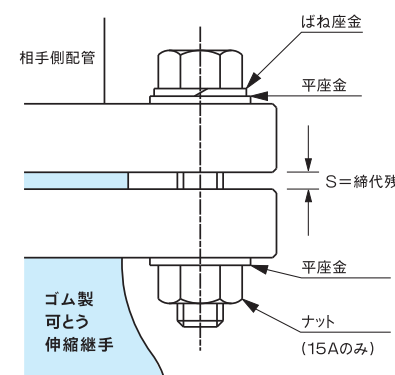
フランジタイプ (ガスケット座の種類)			
全面座 (FF)	平面座 (RF)	溝形 (BF)	溝形 (TB-T) / はめ込み形 (MF-F)
<p>問題ありません</p> <p>ゴム本体のパッキン部を押さえる力が十分にあり、溶接のバリによりパッキン面を傷つける恐れがあります。バリはヤスリまたはサンドペーパーなどで取除き、必要に応じてゴム以外のガスケット(シートパッキンなど)を併用してください。</p>	<p>問題ありません</p> <p>ゴム本体のパッキン部と相フランジの座面の径が同じ位なのでパッキン部を押さえる力が十分にあり、塩ビライニングなどのコーティングが施されている場合、相フランジにコーティングによる段差が生じることがあります。これによりパッキン面が損傷する恐れがありますので、必要に応じてゴム以外のガスケット(シートパッキンなど)を併用してください。</p>	<p>問題ありません △</p> <p>ゴム本体のパッキン面と相フランジの間にゴム以外のガスケット(シートパッキンなど)を併用してください。GF形フランジ専用のGF形ガスケットと直接接続した場合、シール面が同等材質による二重パッキンになり、シール性能の低下が起きます。</p>	<p>使用できません</p> <p>突起部とゴム本体のパッキン面との接触面が少なく単位面積荷重が大きくなりパッキン面が損傷します。</p>

※ゴム製フレキ………ノンアスベスト
※フッ素樹脂製フレキ………フッ素樹脂ガスケット

2) 取付けボルトは、製品側から差込み、ナットは相手側で締付けてください。また、弛み防止のために、ばね座金(スプリングワッシャ)を装着することをお勧めします。また、製品側からの差込み不可の場合はボルトを配管側から差込んでください。なお、ボルトの先端が製品側に極端に突出しないようご注意ください。



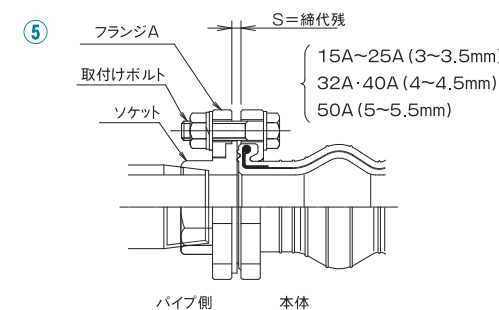
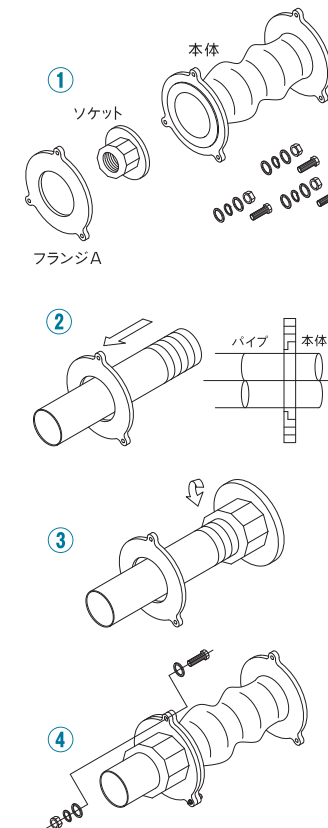
- 取付けボルトの締付けは、対角線に均等に締付けてください。締付け量はP.113・114をご参照ください。片締めなどの異常な取付けは、製品を傷付け、不具合の要因となります。
- 取付け稼働後、ポンプの振動によって取付けボルトに弛みが発生することがあります。この場合は適宜に均等に増締めしてください。
- 取付けの際には、フランジの凹み部(溝部)とゴム本体パッキン部が正常にセットされている状態であるかご確認ください。
- ゴム製可とう伸縮継手15Aの取付け方法は他の製品と異なります。下図通り接続願います。



外ねじ・袋ナット接続の場合

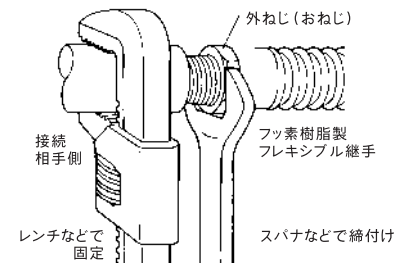
ねじ込み接続の場合

- 取付けボルトをはずし、本体からフランジA・ソケットをばらしてください。
- 相手配管にフランジAを通してください。
- 配管側パイプねじが損傷なく滑らかであることを確認してください。
- 配管側パイプのねじにシールテープ(またはシール剤)を巻き、ソケットを手締めできる山数まで締め、ソケットの平径にスパナ(またはレンチ)をかけ配管側パイプにもレンチをかけ十分に締付けてください。
- 右図④の要領で取付けてください。
- 取付けボルトの締付けは、片締めを避け均等に締付け、締付け量は右図⑤)の締代残をご参照ください。
- 反対側も(2)~(6)の要領で施工してください。
- 取付稼働後、ポンプの振動によって取付けボルトに時として弛みが生じることがあります。その際は、水抜き実施後、均等に増締めしてください。



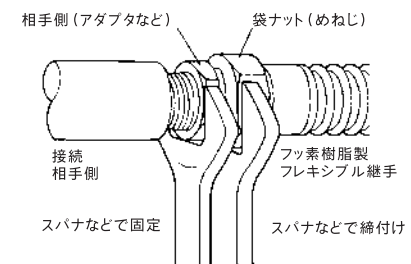
1) 外ねじ(おねじ)

まず、外ねじ側にシールテープ(またはシール剤)を巻き接続相手のねじが損傷なく滑らかであることを確認の上、手締めできる山数まで締込み、相手側にもレンチなどを当てて外ねじをスパナなどで締付けてください。一旦、締付けを完了した後、取りはずしたり、あるいは戻した場合は、ねじ部の異物を清掃し、必ずシールテープ(またはシール剤)を取替え締付けてください。



2) 袋ナット(めねじ)

袋ナットの接続相手の外ねじに損傷ないことをご確認ください。手締めできる山数まで締込み、相手側(ニップルなど)にもスパナなどを当ててホースにねじれが生じないように固定し、袋ナットをスパナなどで締付けてください。



複合変位量の補正について

各製品の許容変位量は単独変位の最大値を示します。従って変位が複合する場合は次の式で補正してください。

$$\text{補正伸び量(縮み)} = \text{許容伸び量(縮み)} \times \left\{ 1 - \left(\frac{\text{偏心}}{\text{許容偏心}} + \frac{\text{偏角}}{\text{許容偏角}} \right) \right\}$$

(Lシリーズは $\frac{\text{偏角}}{\text{許容偏角}} = 0$ として計算してください。)

例: ゴム製フレキシブル継手(TOUGHLEX 100A)で偏心が10mm必要な場合の補正許容伸び量

$$\text{補正伸び量} = 15 \times \left\{ 1 - \left(\frac{10}{25} + \frac{0}{20} \right) \right\} = 9 \text{ mm}$$

例: フッ素樹脂製フレキシブル継手(FLONEXα 80A)で偏心が5mm必要な場合の補正許容伸び量

$$\text{補正伸び量} = 25 \times \left\{ 1 - \left(\frac{5}{13} + \frac{0}{14} \right) \right\} \approx 15 \text{ mm}$$

例: ゴム製可とう伸縮継手(LSコネクタ300A)で偏心150mm必要な場合の補正許容伸び量

$$\text{補正伸び量} = 40 \times \left\{ 1 - \left(\frac{150}{200} + 0 \right) \right\} = 10 \text{ mm}$$